

## 〈競技上の注意事項〉

- 1 競技規則については、（公財）日本ソフトテニス連盟発行ソフトテニスハンドブックに準拠し、競技は7ゲームマッチで行う。
- 2 【服装・用具について】
  - (1) 選手は、背中にB 5サイズのゼッケンの4隅を留めて出場すること。
  - (2) 試合に使う用具、ユニフォームは日本ソフトテニス連盟公認メーカーのものを使用すること。
- 3 【審判について】
  - (1) 選手の敗者審判を原則とする。試合に出場した選手が行い、審判ワッペンをつけること。
  - (2) 正審は、ストップウォッチを用い、試合前の乱打・チェンジサイズ時の時間を管理し、スムーズに試合を進行させること。
  - (3) 審判中に、対処が困難な事態が生じた場合は、審判委員の指示を仰ぐこと。
- 4 【ベンチについて】
  - (1) プログラムの番号の少ないペア（チーム）が北側（土手側）を使用する。
  - (2) 個人戦では次の試合のペアは、前の試合終了以前にベンチ入りしなければならない。審判が位置についた時点で試合が開始出来ない場合には、5分毎に警告を1つ与える。
  - (3) 監督・ベンチ入り指導者は選手の服装に準じることとし、テニスシューズを着用すること。また、ベンチ入りの際には必ずIDカードを身につけること
  - (4) 団体戦において選手・監督は、原則としてベンチに腰をかけて応援すること。
- 5 【練習場所について】
  - (1) 本部からの許可なくコート内で練習したり、通路で練習したりしないこと。
- 6 【個人戦について】
  - (1) 出場する選手が、病気やけが、その他理由により出場が困難であると校長が認めた場合は、ペアのうちの1人の選手変更を認める。その場合は、事前に地区責任者を通じて専門委員長へ申し出ること。大会当日に上記理由が生じた場合は競技委員長へ申し出ること別途審議の対象とする。大会で定める受付時間が過ぎたものについては一切認めない。
  - (2) 個人戦のベンチには、参加申込書に記されたベンチ入り指導者（教職員、外部指導者）のみが入ることができる。
  - (3) 選手はチェンジサイズ時とファイナルゲーム前に、自陣のベンチでのみ、ベンチ入り指導者からのアドバイスを受けることができる。
- 7 【団体戦について】
  - (1) チームは参加申込書に記載された選手4～8名と、監督1名により構成される。選手・監督は団体戦初日の受付時間内に変更することができる。それ以降の変更はできない。
  - (2) オーダー用紙はフルネームで記入すること。登録外の選手を記入し出場した場合、当該チームの失格とする。提出の際は誤記入がないか十分に注意し、確認すること。
  - (3) 1回戦のオーダー提出は、開会式以前に完了すること。その他のオーダー提出は、対戦相手が決まり次第、5分以内に提出すること。
  - (4) オーダー記載以外の選手が出場した場合、その当該チームは失格となる。
  - (5) 各チームの初戦は勝敗が決しても第3対戦まで行う。両校とも2試合目以降である場合は、チームの勝敗が決した時点で終了とする。
  - (6) 2面展開で行う場合は、両コート中央にベンチを配置し、監督はその場所であ

ドバイスを行う。試合が進行し、1面展開になった場合は、当該コートのベンチでアドバイスをを行う。

- (7) 選手が6名に満たないチームは、団体戦前日までに専門委員長へ連絡すること。  
(2ペアでの団体戦では第2対戦で試合が終了するため、対戦チームへの連絡を必要とする)
- (8) 2ペアで出場のチームは、第1・第2対戦に出場し、第3対戦は不戦敗とする。
- (9) 2ペアで出場するチーム同士が対戦して対戦成績が1-1となった場合、下記の①~③により勝敗を決定する。
  - ① 2ペア合計の得失ゲーム差の大きいチーム
  - ② 2ペア合計の得失ポイント差の大きいチーム
  - ③ ②も同じ場合は、勝者ペア同士で対戦して勝ったチーム

8 【その他留意事項】

- (1) プライベートテント設置区域は多目的グラウンド、12面コート西側・南側、6面コート南側の林内を利用すること。フェンスからは一定の距離をとること。
- (2) 部旗や横断幕は4・8・12コート西側か18コート東側のフェンスを利用すること。
- (3) 日本ソフトテニス連盟が提唱しているグッドマナーを推進し、試合態度・施設利用のマナーの向上、マッチ後の握手を推奨します。